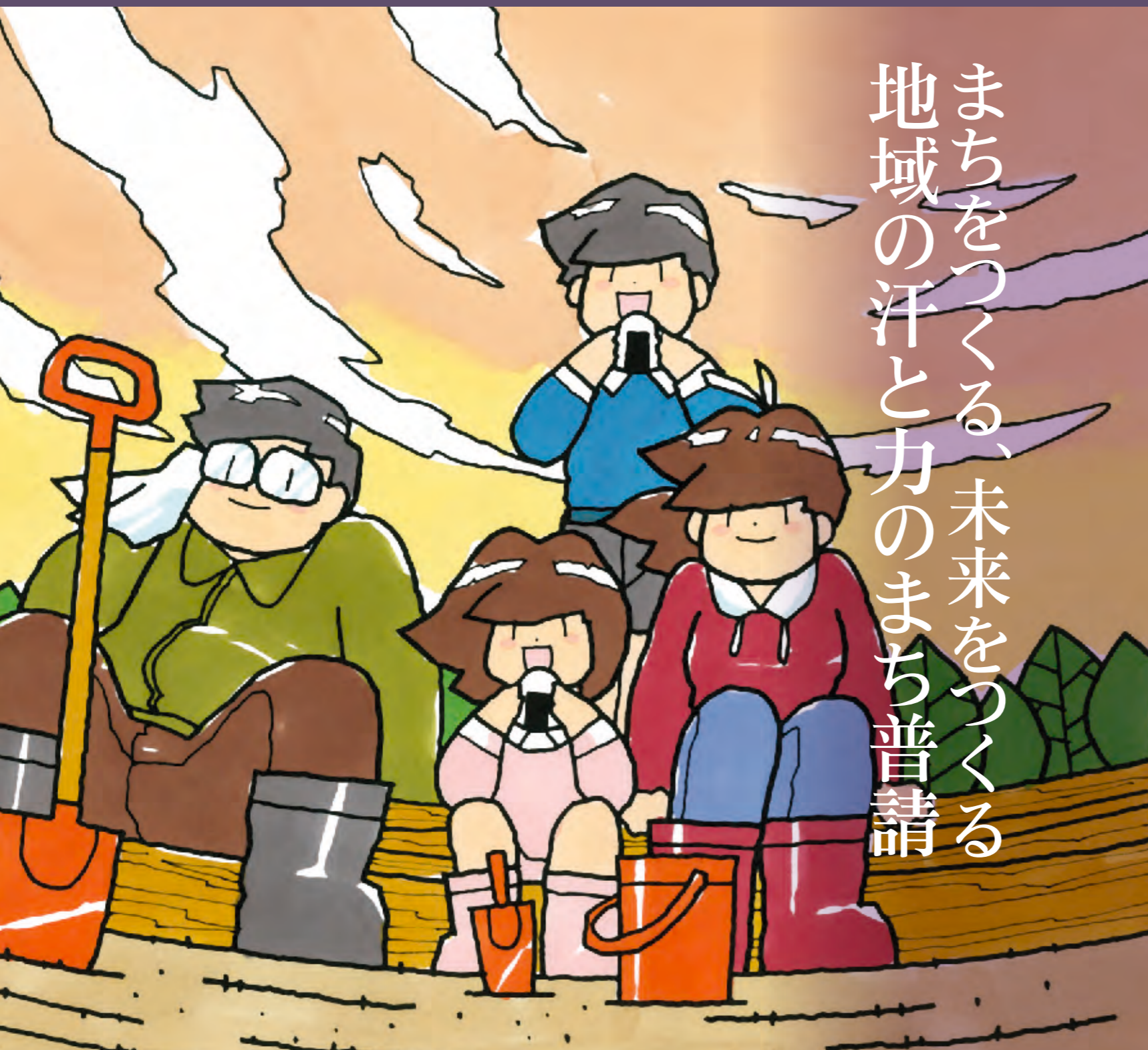


ヨコハマ市民まち普請事業 整備事例集 vol.4

平成20年度選考整備提案

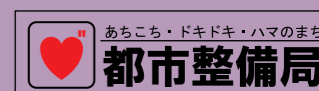
ふしん【普請】「普く請う(あまねくこ)う」とも読み、「力を合わせて作業に従事すること」という意味が含まれています。「公共」は行政によってのみ担われるものではなく、特に地域に根ざした身近な課題への対応などに市民のみなさんが主体的に関わることで、参加する人や地域に暮らす人々の満足感を高めることに繋がっていきます。「まち普請」には、市民に身近な「まち」に「普請」の輪を広げていきたいという願いが込められています。

まちをつくる、未来をつくる
地域の汗と力のまち普請



ヨコハマ市民まち普請事業 整備事例集 vol.4 [平成20年度選考整備提案 整備事例集]

- 発行 平成22年10月
横浜市都市整備局都市づくり部地域まちづくり課
〒231-0017 横浜市中区港町1-1 TEL 045-671-2696 FAX 045-663-8641
- 編集 特定非営利活動法人 アクションポート横浜
- デザイン 有限会社 USC 街・空間計画



ヨコハマ人・まち

まち人がまちをつくる

身近なまちづくりに役立つ無料のメールマガジン「ヨコハマ人・まち」を読みませんか？
メールマガジンのご案内：<http://ml.city.yokohama.jp/mailman/listinfo/hitomachi/>



1 事業のあらまし

2 森と人がつながる地域のコミュニティ道路
整備事例1 森に隣接した旭高校外周道路のコミュニティ空間化[旭区]

3 新しいまちの未来を育てる公園づくり
整備事例2 高島中央公園におけるファミリーガーデン計画

4 農作業の喜びが地域をつなぐ
整備事例3 農業体験を通して高齢者と地域住民が交流する場づくり

5 ふるさとの景観にとけ込む本格的な茶室づくり
整備事例4 都筑民家園に市民に親しまれる本格的な「茶室」を整備

6 平成20年度選考整備提案グループの声



平成20年度 横浜市地域まちづくり推進委員会
ヨコハマ市民まち普請事業部会

- 卯月 盛夫 早稲田大学教授(建築・都市デザイン)
- 岡部 友彦 公募市民
- 河上 牧子 慶應義塾大学産業研究所共同研究員(都市政策・コミュニティ計画)
- 木下 勇 千葉大学教授(緑や子どもの環境のデザイン)
- 嶋田 昌子 NPO法人横浜シティガイド協会理事(まちづくりNPO)
- 名和田 是彦 法政大学教授(公共哲学・コミュニティ論)
- 平岩 千代子 民間コンサルタント(NPO・企業・行政のコラボレーション)
- 安田 信雄 公募市民

事業のあらまし

●この「ヨコハマ市民まち普請事業」とは、市民の発意とアイデアによる身近な地域の公共空間や私有地などの整備に関するまちづくりの提案を募集し、2回にわたる公開コンテストにより選考された提案に対して最高500万円の整備助成金を交付する制度です。整備場所又はその近くの在住者、事業者または土地・建物の所有者3人以上を含むグループであれば、誰でも応募することができます。

- 平成18年度から整備が始まり、平成21年度までに20事業の整備が完了しました。
- 今回ご紹介する平成20年度の事業では、10件の提案の応募があり、7つの提案が1次コンテストを通過、そして4つの提案が2次コンテストで整備対象提案に選考されました。平成21年度末(平成22年3月)にこれら4つの整備が完了しました。
- この事例集では、この4つの提案が完成するまでに、提案グループのメンバーや地域の方々が積み重ねてきた試行錯誤や工夫の様子をご紹介します。また、整備を進める上で行政や専門家の支援を受けつつ、共有した思いを実現するために相談や調整を繰り返し行い、粘り強く推進した事業の経過をご報告させていただきます。
- 自分たちのまちへの思いを自ら形にしていく「ヨコハマ市民まち普請事業」、みなさんのまちの身近なまちづくりに役立ててみませんか。

森と人がつながる地域のコミュニティ道路

整備事例1 森に隣接した旭高校外周道路のコミュニティ空間化[旭区]



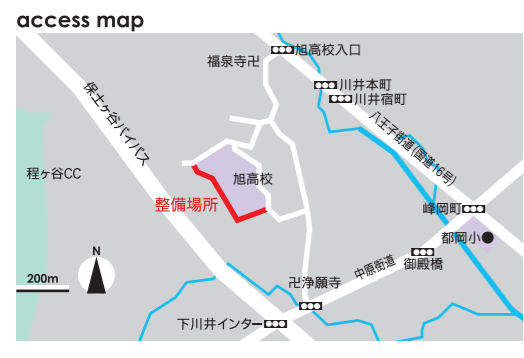
川井特別緑地保全地区に隣接した、神奈川県立旭高校の外周の道は、緑地との境が鉄板塀で遮蔽された、暗く、人通りも少なく、緑地への不法投棄が絶えない場所でした。この道を、地域の人に親しまれ、安心して通ることができるよう、にしよというのが、このプロジェクトです。

応募当初は、森の手入れの活動の活性化を狙っていましたが、いざ応募してみると、計画は、本来の目的から離れ、最後には、道の整備だけになってしまいました。あるメンバーは、「道だけではだめだ、森を良くしなければ」と、事業の断念が頭に浮かびました。しかし、なぜか多くのメンバーは、やる気満々。森から出る間伐材をできるだけ多く使うことで、森とこの事業をつなげることにしました。そして、苦労を重ねれば重ねるほどメンバーの一体感が出てきて、設置した休憩所やベンチ、鉄板塀の代わりに作った柵はもちろん、サインや、車止めに至るまで、この森から切り出した木材で造りました。

また、グラウンドと道の間の植樹、路面に描かれたユニークなデザインのペインティングなどは、旭高校の生徒たちと協働で行いました。この整備作業の間中は、森の作業はほとんどできなかったそうです。

森に隣接した旭高校外周道路のコミュニティ空間化整備概要

整備主体:よこはま山里研究所・川井緑地森づくりプロジェクト
 整備場所:旭区下川井町2274
 整備内容:車止め、作業デッキ、丸太柵、案内板、ベンチ、植栽、メッシュフェンス、道路面への模様描き、ガードレールの再塗装
 竣工時期:平成22年3月

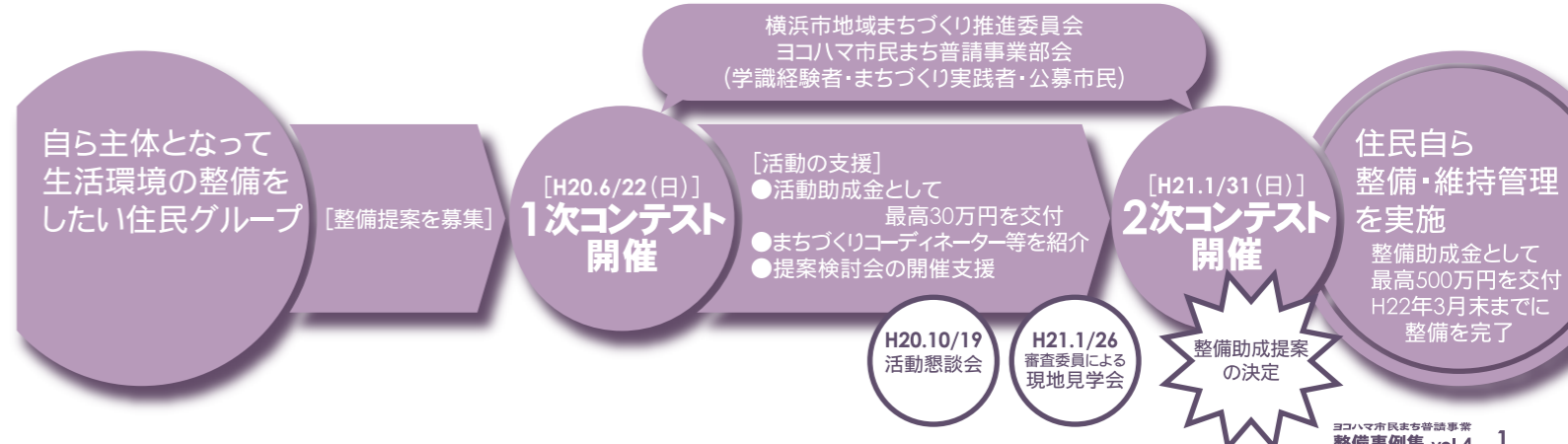


(写真上) 生まれ変わった旭高校外周道。森との境にあった鉄板塀は、木製の柵に変わりました。路面には、木の葉や動物の足跡などユニークなペインティングがほどこされています。
 (写真中) 森の方へ張り出して設置された休憩所。ベンチとテーブルが置かれ、散歩の途中でゆったりと休むことが出来ます。この森から切り出した木で作りました。
 (写真下) 植樹と柵を作っている作業。旭高校の生徒が大勢一緒に作業をしてくれました。

メンバーの一人に、成功の秘訣はと聞いてみると、「小さな成功体験を積み重ねていくことですかね。地域の人から、良くなりましたねと声をかけていただくとうれしいですね。」と答えが返ってきました。

明るく木漏れ日の差すコミュニティ道路、一度お散歩に出かけてみませんか。

事業の流れ(平成20年度)



新しいまちの未来を育てる公園づくり

整備事例2 高島中央公園におけるファミリーガーデン計画「西区」



みなとみらい地区にある、高島中央公園は、とても広いオープンスペースがありますが、小さな子どもが安心して遊べる遊具や、木陰などの休憩場所となるところがありませんでした。

「地域の人が集う、コミュニティが育つ公園にしたい」そんな思いで集まったメンバーたちで、まち普請事業の検討が始まりました。幸い、メンバーの中には公園づくりの専門家もいて、公園を訪れるファミリーやカップルが楽しめる憩いのスペースを目指して計画づくりを進めていきました。地域の人を対象に行ったアンケートでは、必要とされているのは、日陰、砂場とベンチだということもわかりました。しかし、実際の整備では、公園の中に物を作るとき、利用者の安全に配慮しなければならぬことなど、多くの制約がありました。この制約を守りながら公園づくりを行っていく調整が一番苦労したそうです。

しかし、様々な工夫と努力を重ねて整備を実現しました。すでに設置されているパーゴラに、つる性の植物を這わせて日陰をつくることにしました。また、大きな木を植えるには費用が足りず、この事業では無理なことがわかりましたが、公園管理者との調整で、公園として木を植えてもらえることになり実現しました。デザインを公募で決めた砂場のモザ

イクタイル、花壇を横切る散歩道に配置したレンガは、地域の子もたちと一緒に作ったものです。地域のみんなで考えつくり上げた公園、みなとみらい地区にお越しの際には、ぜひお立ち寄りください。



(写真上) 公園に新しく設置された砂場。砂場の真ん中の円柱の上には、デザインを公募で決めた、モザイクタイルの絵が描かれています。
(写真中) 花壇を横切る小道。(写真下) この小道には、レンガタイルを敷き詰めました。このレンガ、地域の子もたちも一緒に施工を行いました。

農作業の喜びが地域をつなぐ

この事業は、上瀬谷農業専用地区内の農地を、農作業を通して、周辺にある高齢者施設や小学校、高校との交流が出来る場、周辺で耕作する人、地域の人々な

どみんなが気軽にくつろげる場にしようとして計画されました。ここには、収穫倉庫としても活用できる農業用倉庫兼農機具置き場を設置し

整備事例3 農業体験を通して高齢者と地域住民が交流する場づくり
[瀬谷区]



この周辺は20mぐらい掘れば水が出ると聞いていたので、作物の水やりなどに使う水の確保のために井戸を計画。ポンプを手押しとし、貯水タンクも設置しました。

このような、パーゴラを組む、井戸を掘る、小屋を建てるなどの作業には、元の高校生が参加してくれました。校長先生も交えて井戸を掘り、水が出た時には、みんなで万歳三唱をしたそうです。今は、メンバーが10人から15人で、月2回の作業をしているそうです。今後のことをお聞きすると「喜びを得るまでには時間がかかる。収穫があって初めて喜びがあると思うんです。今回整備したこの拠点を活用して、地域のことも達から高齢者まで、幅広い世代の方々と、さらに交流が深まるように利用していきたいと思っています。」とお話されました。

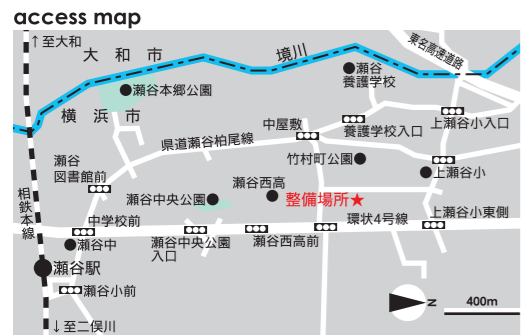
ました。ユニークなバイオトイレ付きです。その横には、休憩場所としてパーゴラがありますが、材木を組み立てるまでに時間が空いてしまい、木が収縮して、うまく組むことが出来ず苦労したそうです。現在、組みあがったパーゴラには、ヒョウタンを這わせて日よけが作られています。



(写真上) 農園に掘られた井戸の手押しポンプと貯水タンク。井戸から汲み上げた水を貯めておきます。
(写真中) この広場の入口には、「せやふれあい農場」と書かれた手作りの看板も付きました。
(写真左下) 井戸を掘る高校生。この井戸は、男子生徒も女子生徒も、そして校長先生も一緒になって掘りました。
(写真右下) 休憩所として作られたパーゴラ。ヒョウタンをわはせ、しっかりと日除けの役割をしています。

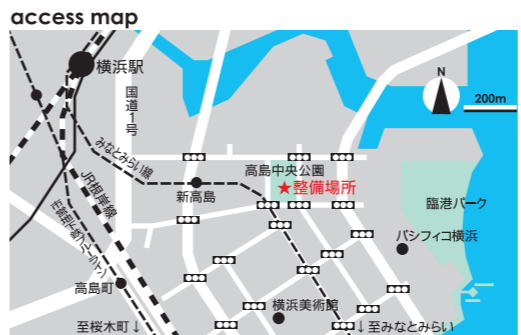
農業体験を通して高齢者と地域住民が交流する場づくり 整備概要

整備主体：高齢者子ども等が農体験で交流する場づくり実行委員会
整備場所：瀬谷区瀬谷町7029
整備内容：農機具並びに収穫保管倉庫、バイオトイレ、パーゴラ、手押しポンプ式簡易井戸・給水設備、間伐木材を利用したベンチ設置、保護柵の設置、堆肥製造用置き場、カプトムシ飼育容器設置、掲示板の設置
竣工時期：平成22年5月



高島中央公園におけるファミリーガーデン計画 整備概要

整備主体：高島中央公園ガーデニングクラブ
整備場所：西区みなとみらい15丁目
整備内容：ガーデン（ロックガーデン・花壇・園路）
竣工時期：平成22年3月



ヨコハマ市民まち普請事業

平成20年度選考整備提案グループの声

整備途中には苦労だと思っていた、地域の多くの方々の合意を得たり、学校や町会などに参加・協力を呼び掛け、また、自らが汗をかいて整備に取り組んだことなどが、整備が進むにつれて財産に変わっていったそうです。ここでは、「まち普請」の活動を通じて地域の方々と交流が生まれたことによる喜び、苦労話や今後の抱負など、提案グループからのあれこれのメッセージをご紹介します。

よこはま里山研究所 川井緑地森づくりプロジェクト

- まち普請事業を始めたら、参加するメンバーが増えてきました。
- この事業を始めて、様々な苦労を経験していくうちにメンバー全員が一体になれました。
- 今までは、森の中で切る木を選んでいましたが、切った木をどう使うかを考えるようになりました。
- 周りから支えられて完成することが出来ました。整備後は、明らかに利用者が増えました。
- 「良くなったね」と声をかけていただくことがうれしいです。「公園になるんですか」との声もかけていただいたりしました。
- 高校の担当の先生が春に異動になり、最初から連携を進めなければならなかったことが少し大変でした。
- まち普請事業のコンセプトを理解し、自分たちの提案内容をまち普請にふさわしいものにするまでに時間が掛かりました。

高齢者子ども等が農体験で交流する 場づくり実行委員会

- 1. コンテスト通過後、5月までは人がたくさん集まってきたのですが、その後は減ってしまい、いかに農作業に継続的にかかわってもらうか、人集めに少し苦労しました。
- 最初の内は、「あの小さいところで何をやるのか」と、地元の方々も興味シンシンだったようですが、そのうちに形が見えてきて、「ああ、こういうものだったのか。」という声も聞こえてきました。
- ベンチづくりや井戸掘りでは、高校生と一緒に作り、交流することが出来ました。
- 水を蓄える場所、休む場所という活動の基盤が出来たので、これから、様々な交流を深めるようにしていきたいですね。
- 小学校や高校も近くにあるので、意思疎通をしていけば、発展していけると思っています。
- 専門家の役割は、とても重要でした。建築確認の時に指導を受けましたが、的確に対応していただきました。

高島中央公園ガーデニングクラブ

- 1. 何もないところから始めて、同じ思いの地域の方々と知り合うことが出来ました。
- 手入れをしているとき声をかけていただきうれしかったです。
- 公園の中にもものを作るということで、安全性などに配慮しなければならないことが多く、できることにシフトし、イベントを工夫してみんなで遊ぶ、楽しめるものとなりました。
- そのおかげで結果的には良いものが出来たと思っています。
- 周知がなかなかうまくいきませんでした。自治会までは理解していただいたのですが、住民一人一人までにはなかなか至りませんでした。
- ハロウィンでは、みなとみらいの商業施設で、衣装をしていくとお菓子をもらえるイベントを実施するのですが、その商店街から、この公園を利用したいとの声がかかり、輪が広がっているなど感じています。

茶室を贈る有志の会 +茶室まち普請・活用推進委員会

- 1. 広報することで、子どもを含め大勢が参加してくれましたし、マスコミにも取り上げてもらい、活動に自信を持つことが出来ました。
- 2次コンテストを通ったことで、経費の面などで反対していた人も協力してくれるようになり、多くの人の力を合わせて事業を行うことが出来ました。
- 職人さんの技を直接見ることが出来、ものづくりの原点を見ることが出来ました。
- 真夏の炎天下での作業、大変でした。
- 材料の搬入搬出など民家園のイベント、来園者との調整や年度末の工期の調整には大変苦労しました。また、10件程度の申請が必要で、書類が大変でした。
- まち普請事業の節々の仕掛けに乗せられたことが、成功の秘訣かもしれません。



都筑区には4か所の地区センターに茶室がありましたが、これらは多目的に利用されており、競争率が高く、利用するのが大変でした。そんなとき、都筑民

家園茶道愛好会が中心となり、都筑民家園に茶室を贈ろうという話が持ち上がりました。幸いにも資金提供のお話もあり、「都筑民家園に茶室を贈る



ふるさとの景観にとけ込む本格的な茶室づくり

整備事例4 都筑民家園に市民に親しまれる本格的な「茶室」を整備
「都筑区」

家園茶道愛好会が中心となり、都筑民家園に茶室を贈ろうという話が持ち上がりました。幸いにも資金提供のお話もあり、「都筑民家園に茶室を贈る

家園茶道愛好会が中心となり、都筑民家園に茶室を贈ろうという話が持ち上がりました。幸いにも資金提供のお話もあり、「都筑民家園に茶室を贈る

家園茶道愛好会が中心となり、都筑民家園に茶室を贈ろうという話が持ち上がりました。幸いにも資金提供のお話もあり、「都筑民家園に茶室を贈る

家園茶道愛好会が中心となり、都筑民家園に茶室を贈ろうという話が持ち上がりました。幸いにも資金提供のお話もあり、「都筑民家園に茶室を贈る

家園茶道愛好会が中心となり、都筑民家園に茶室を贈ろうという話が持ち上がりました。幸いにも資金提供のお話もあり、「都筑民家園に茶室を贈る

家園茶道愛好会が中心となり、都筑民家園に茶室を贈ろうという話が持ち上がりました。幸いにも資金提供のお話もあり、「都筑民家園に茶室を贈る

家園茶道愛好会が中心となり、都筑民家園に茶室を贈ろうという話が持ち上がりました。幸いにも資金提供のお話もあり、「都筑民家園に茶室を贈る

家園茶道愛好会が中心となり、都筑民家園に茶室を贈ろうという話が持ち上がりました。幸いにも資金提供のお話もあり、「都筑民家園に茶室を贈る

都筑民家園に市民に親しまれる本格的な「茶室」を整備 整備概要
 整備主体：茶室を贈る有志の会+茶室まち普請・活用推進委員会
 整備場所：都筑区大塚西2番地
 整備内容：放水銃移設、池浄化設備設置、池内荒木田内、池整備（植栽、循環ポンプ）、露地石組み、垣根
 竣工時期：平成22年3月



(写真上) 新しく建てられた茶室の付まい。民家園の一番奥に建てられたこの茶室は、お茶だけでなく、歌会や句会など多目的に利用できるように造られています。
 (写真中) 茶室の前の池は、茶室の露地として、コンクリートをはがし、「ふるさとの景観」をもつ自然の池に造りかえられました。
 (写真下) 池のピオトープ化は、地域の子もたちと一緒に作業をしました。木のプランターに土を入れミツガシワの苗を植えて池に沈めました。